

### 共同被告同志に告ぐる書

我々は獄中に幽居すること既に四年、その置かれた條件の下において全力的に闘争を続けると共に、幾多の不便と危険とを冒し、外部の一般情勢に注目してきたが最近、日本民族の運命と労働階級のそれとの關聯、また日本プロレタリア前衛とコミンタインとの關係について深く考ふる所があり、長い沈思の末、我々従來の主張と行動とにおける重要な變更を決意するに至つた。

日本はいま、外、未曾有の困難に面し、内、空前の大變革に迫られて居る。戦争と内部改革とをほらむ此内外情勢に對し、あらゆる階級と黨派とは課題解決の準備と對策に忙しむ。此時、労働階級の前衛を以て任ずる日本共産黨が幾多の缺陷を呈露して居る。黨の基礎は現實的にも可能的にも著しく擴大したが、黨員の社會的構成も黨機構も行動も宛ら急進小ブルジョアの政治機關化して居る。黨は近年の恐慌及